



## 令和6年度卒業証書授与式

本日21日(金)、令和6年度の卒業証書授与式が行われ、96人の子供たちが、帯西を旅立っていきました。校長式辞の中で次のような話をしました(概略のみです)。

皆さんが入学した年の5月に平成から令和へと元号が変わりました。その6年間で、世の中では、予測不能なことが起こり、社会は大きく変わりました。このような中でも、私は明るい未来を創り出すことができると確信しています。それは、私たちの暮らす日本には、素晴らしい歴史や文化、自然があるからです。それを証明する事実として、先ず、アメリカの大手旅行雑誌が発表した『世界で最も魅力的な国』として日本が二年連続で一位に選ばれています。次に、『ミシュランガイド』では、日本が世界で最も多くの美味しいレストランがある国と評価されています。さらに、世界自動車メーカーランキングでは、五年連続で日本のトヨタ自動車が一一位を獲得しました。他にも、数々の最先端技術によって、世界トップのシェアを誇る日本企業は山程あります。このように価値あるものを創り出すことのできる日本なのですが、低迷が続いている要因の一つとして、日本人が『誇り』を失ったからではないかと言われていています。国への誇りを失ったばかりか、今の時代は自分への誇りや自信を失っている人が増えています。例えば、SNSの発展により、情報を他人と比べてしまったり、表現の解釈の違いから、『炎上』に繋がったり、デジタルを通じた相手の存在の希薄さから、厳しい言葉を投げ掛けたりしてしまう人も増えていて、社会問題にもなっています。

しかし、三学期の始業式でその解決の糸口になる、ある言葉を皆さんに紹介しました。それは『和顔愛語(わけんあいご)』です。この和顔愛語には続きとなる言葉があります。それは『先意承問(せんいじょうもん)』です。これは、相手の気持ちを先読みして自分のできることをする心遣いを意味します。これらの言葉は、日本の数千年の歴史の中で伝え続けられてきました。どんなに社会が発展しても、人付き合いのあり方が変わっても、和顔愛語と先意承問は人々の絆を強化する重要な要素であることに変わりありません。先ほど紹介した、『世界で最も魅力的な国』や『ミシュランガイド』で日本が世界一になったのも『おもてなし』文化によって、相手に対する敬意を持ち、見返りを求めない心でもてなしてきたからです。また、トヨタには、それぞれの国や地域に合った車種を出しています。これは、相手国の交通事情を調べ、企業としてできることを努力してきた結果と言えます。また、日本には、百年以上も続いている企業の数是世界一と言われていています。それらの企業に共通していることは、作業やモノづくりに対しての『誇り』があるということです。誇りがあるからこそ、社員一人一人が自分から進んでよりよい仕事ができると言います。これは、まさに今日皆さんに伝えた『和顔愛語・先意承問』の精神があるからです。

これを小さな社会である帯西に置き換えて考えてみましょう。皆さんは、チーム帯西の中で、自分や友達の行いを『四つの心』で価値付けたり振り返ったりしながら、自分から進んで道徳性を発揮してくれました。例えば、委員会活動やボランティア活動、たてわり班活動など、『四つの心』を生かした活動を、磨き上げ、よりよいものにしたのは、皆さんが力を合わせてリーダーシップを発揮してくれたからです。そこには、下級生を思いやり、学校全体のことを考え自分にできることを実行する『和顔愛語・先意承問』の姿があり、みんなから頼られ、『わくわく』を感じている皆さんの姿がありました。これを言い換えると、帯山西小学校は、自分自身が誇らしい気持ちになって活躍できる人材を育てていく学校である、と言いきることが出来ます。皆さんも、この帯山西小学校で過ごしたという誇りを胸に巣立って行ってください。



6年生は本当に立派な姿で卒業してくれて、「帯西ブルー」の心で会場を一杯にして、巣立っていきました。卒業生の限りない可能性に幸多かれと心より祈っています。今日は、本当におめでとうございませす。